



予防接種で病気を防ぼう

平成23年1月からは、子宮頸がん等予防ワクチンの接種費用助成が始まり、関心がある方も多いかと思えます。

しかし、予防接種の多様化に伴い、「何がどうして必要なのか?」または、「自分は接種が必要なのか?」等が分かりにくくなっているのも事実です。そこで今回は、「予防接種」についてご紹介します。

◆予防接種の効果

感染症は、細菌やウイルス（病原体）によって引き起こされます。予防接種の役割は、「病気に対する特異的な抵抗力（免疫力）をつけて、病原体から身を守ること」です。

予防接種の対象となっている病気は、子どもや高齢者などの免疫力が弱っている人がかかりやすく、人によっては重症化することが心

配されるものもあります。

また、予防接種はあくまで「病気を予防する」ひとつの手段です。既にかかっている病気を治したり、ウイルスを退治したりするものではありません。

◆予防接種のいろいろ

予防接種は予防接種法に基づいて行われる定期接種と、それ以外の任意接種に分かれます。

また、用いられるワクチンにもいくつか種類があります。それぞれの特徴を知って、納得の上接種を受けましょう。

◎定期接種と任意接種の違い

《定期一類疾病予防接種》

集団感染が予想され、かつ重症化しやすい病気を予防するために行います。

法律により、接種の時期や種類が定められ、接種することが義務づけられています。

《任意予防接種》

ワクチンの予防効果は確認されていますが、法律上は規定がありません。ほとんどの場合、自己負担があり、希望者のみ接種します。

◎ワクチンの種類と特徴

《生ワクチン》

生きた細菌や毒性を弱めたウイルスを使用したワクチンです。一度の接種で強い免疫力を得ることができます。

ポリオ、麻しん・風しん、BCG、おたふくかぜ等のワクチンがこれにあたります。

《不活化ワクチン》

免疫力をつけるのに必要な成分だけを取り出した、毒性のないワクチンです。十分な免疫力をつけるには、数回接種を繰り返す必要があります。

三種混合、インフルエンザ、ヒブ、肺炎、肺炎球菌、子宮頸がん等のワクチンがこれにあたります。

◆予防接種後の注意点

予防接種後、発熱や腫れ等の症状が現れることがあり、これらを

「副反応」といいます。

予防接種の種類によって種類や程度は違いますが、ほとんどは短時間で軽快します。症状が強い場合は医療機関を受診しましょう。

副反応で特に注意したいのがアナフィラキシーショック。接種後30分以内に、じんましんが出たり、嘔吐や息苦しさ等激しいアレルギー反応が全身に起こります。起きる頻度は非常にまれですが、接種後30分は医療機関で様子を見るか、医師とすぐに連絡がとれるようにしておきましょう。

また、持病がある等で接種に不安がある方は、かかりつけ医と相談することをお勧めします。

◆感染症の予防のために…

予防接種は、非常に効果の高い感染症対策のひとつです。しかし、全ての病気が予防接種で防げるわけではありません。

一番の感染症対策は日々の健康管理です。うがい・手洗いはもちろん、規則正しい生活を心がけましょう。

ふれあい健康センター保健師